

## 2025 年度 健康栄養学部 FD 活動報告書

2025 年度の健康栄養学部の FD 活動では、全学の FD 方針に基づき、以下の取り組みを中心に実施した。

### 1. 言語スキルの向上

#### (1) 活動内容と成果

・前年度学部で作成した「メール作成チェックリスト」を各学年の主要授業科目において提示し、指導を行った。1 年次生に対しては、基礎的なメールの書き方、2・3 年次生に対しては、学外実習先との連絡方法、4 年次生に対しては、就職活動での活用を念頭に、学外の方へ向けたメールの作成方法の指導を行った。

・各実験授業におけるレポート作成の指導状況を確認し、学生に必要な文章および図表作成能力の整理を行った。本検討において、共通した指導要領とチェックリストの必要性が挙げられたことから、複数の実験科目で統一して使用できる「レポート作成チェックリスト」の作成を行った。

・共通教育センター言語スキルチームと連携し、学外実習に向けた「パラグラフライティングについて（伝わりやすい文章の書き方）」の講習会を実施した。校外実習で学びたいことの列挙方法、実習ノートの書き方、お礼状の書き方等について講義、指導を行った。

#### (2) 評価

使用頻度の高いメール作成のチェックリストを学生へ提示することができたこと、また、複数の実験科目で共通して利用できる実験レポート作成のチェックリストを作成することができたことは一定の成果といえる。次年度は作成したレポート作成チェックリストを各実験科目で周知・活用していくとともに、実習・演習科目における課題チェックリストの作成を検討していく。また、学外実習における講座、実習ノート・お礼状の書き方指導は共通教育センター言語スキルチームと連携したことで、学生が書きたい内容を正しく文章化する習慣づけと、ライティングサポートセンターの活用を周知する機会となり、次年度以降も継続していきたい。

## 2. 基幹科目の強化

### (1) 活動内容と成果

・学事暦の変更に伴う学修時間の過重負担を軽減するため、学外実習及び関連科目の実施時期見直しを行った。臨地実習Ⅰは、後期授業との重複を避けた実施時期へ移行し、学生・教員双方への負担を軽減する措置を取った。また、臨地実習Ⅱ・Ⅲの事前・事後指導科目である「総合演習Ⅰ」および「総合演習Ⅱ」について、その授業内容および開講時期の変更・見直しを行った。

・教員間における授業聴講、専門領域の全教員及び関連科目ごとの検討会を実施することにより、授業の教授方法や内容、課題、進め方、学生の受講状況、理解度等の情報共有を行い、管理栄養士養成に必須である専門科目間の連携を図った。

### (2) 評価

学外実習の実施時期と内容の見直しを行ったことで十分な学修時間が確保できた。「総合演習Ⅰ・Ⅱ」については、次年度、新設科目として授業内容の改善と充実を図る。教員間における授業聴講や検討会では各教員の授業内容や検討課題を横断的に共有することができた。次年度へ向けて、シラバス作成と授業デザインの立案に役立てていく。

## 3. 105分授業の検証

### (1) 活動内容と成果

・学生を対象に前期・後期の定期試験終了後に105分授業についてのアンケート調査を実施するとともに、意見交換会を実施した。また、教員を対象として新学事歴および105分授業の影響についてアンケートを実施し、その結果を共有するとともに、FD検討会を開催して各教員間で授業内容の振り返りや工夫点・学生の成績への影響等を話し合った。

### (2) 評価

105分授業の教育効果および課題を検証するとともに、学生自身が不都合に感じている点等を明確にすることができた。また、検討会を通じて、学生とは異なる教員目線での意見や改善案を共有することができた。次年度の授業に向け、シラバス作成、授業デザインの立案に役立てていく。

## 4. 学修成果の可視化と能力分析

### (1) 活動内容と成果

- ・1年次生を対象として基礎演習Ⅱ報告会、4年次生を対象として卒業研究発表会を実施した。
- ・学生個人の能力や特性（外向・協調・勤勉・論理・創造）を把握するため、分析ツール BIG5-BASIC の実施、フィードバックを行った。

### (2) 評価

卒業研究発表会および基礎演習Ⅱ報告会ではスライドを用いて各自の成果発表を行うことで、プレゼンテーションやディスカッションスキルの習熟度を確認することができた。各発表・報告会では、学生間および教員からの評価をフィードバックすることで学修課題の把握を促すこと、また、分析ツール BIG5-BASIC の利用では、学生自身に個々の能力や行動特性の把握を促すことができた。

## 5. 国家試験に向けた学習支援の強化

### (1) 活動内容と成果

- ・個別面談を通して学生の生活・学習・成績状況を確認するとともに、定期的な模擬試験、集中補習講座（夏期・冬期・春期）を実施して、国家試験に向けた学習支援を行った。また、冬期の授業期間外（1～2月）においては、新たな国試対策支援として、コアタイム制による個別指導と少人数制ローテーション式ミニ講座を導入して、未習熟者に対する学習支援の強化を図った。
- ・学生向けの e-ラーニングシステム「ESS」使用方法説明会を実施するとともに、本システムを用いた演習課題および模擬試験を行った。また、教員による利活用の推進を目的として、データベースからの問題選定や保存方法等の説明会を実施し、さらにシステム利用法に関する解説動画の提供を行った。

### (2) 評価

学事歴の変更に伴い生じた冬期授業外期間においては、その活用方法としてコアタイム制による個別指導と少人数制ミニ講座を導入した。これにより、学生個々の状況に応じた学習支援が可能となった。特に、少人数制ミニ講座においては、学生と教員双方から一定の評価が得られている。次年度は、早期における学習習慣

の定着を目標として、指定参考書の導入、少人数制ミニ講座、e-ラーニングシステム、集中補習講座等、支援体制の強化・充実を図っていく。